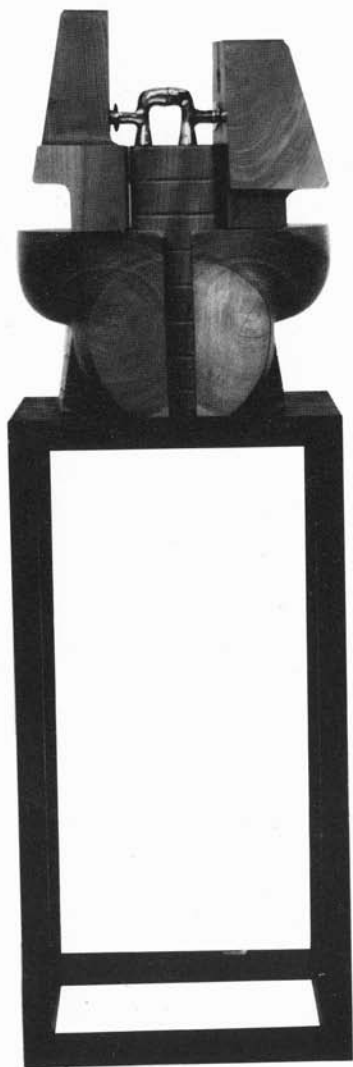


第六回

中
日
展



漁野真理子　ダイレクト・メール



JOSE VANEGAS　DON'T TOUCH HERE



原田砂織　絆(きずな)

(第3種郵便物認可)



金沢美大に留学中、初入選を果たしたホセ・パネガスさん

マヤ遺跡がヒント

ホセさん

ホセ・パネガスさんは南米のコロンビア共和国出身の留学生。金沢美術工芸大学の美術学科で彫刻を専攻している。

パネガスさんは母国の首都ボゴタの国立芸術大学で七年間学び、昨年の三月、帰った

文化の違った造形を求めて来日した。半年間大阪外語大で日本語を学び、ちょうど二年前の九月、文部省のはからいで、金沢にやってきた。

母国では個展も四回開き、実力が認められているパネガスさんだが、日本の公募展に

出品するのは、この中日展が初めてだった。結果は、同じ大学で彫刻を学ぶ友人の原田昭敏さん(三二)と一緒に入選。「グッドラック」と喜び合った。

出品作は、木とパイプを素材にした高さ五十七センチの立体造形で、DONT TOUCH HEREと名付けた。古代マヤ文明のピラミッドのイメージをヒントに、鋭角と丸味という形状の対比の面白味をねらった。制作期間は一カ月だが、構想は一年前からあったため続けていた。

金沢は「日本の伝統が多く残されている。人々も大都市より礼儀正しくて親切」だそう。

昭和59年(1984年)10月3日(水曜日) 〇版 (E)

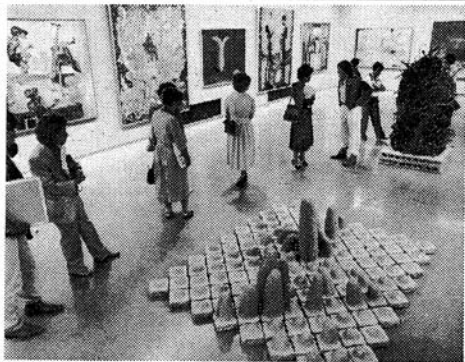
中日展が開幕

中部美術界のあすを開く第
六回中日展(中日新聞社、
中部日本放送、東海テレビ放
送、東海ラジオ放送主催)
が、名古屋市瑞穂区瑞穂通
一、同市博物館三階ギャラリー
で開幕した。厳選された百
六十一点が展示され、美術愛
好者らでにぎわった。

同日午前十時十分、会場前
で出品者や来賓ら約百人が参
加して、開場式と表彰式が行
われた。主催者を代表して岩
津良治中日新聞社常務取締役
が「中部美術界の推進力を目
指す公募展。ことしは内容を

刷新したので、新しい目で見
てほしい」とあいさつ。続け
て中日大賞の神谷かんさん
(三宅)安城市から十人の入賞
者に賞状と賞金が贈られ、テ
ープを切って開場した。

会場では壁面に日本画、洋
画、版画の意欲作が競い、床
には彫刻などの立体作品の力
作がすえられて、新鮮で活力
あふれる。中部の現代美術の
のたくましさを示していた。
同展は十四日までで、八日
は休み。入場料は一般七百
円、高大生四百円、小中生二
百円。



個性豊かな作品が並ぶ中日展会場
一名名古屋市瑞穂区の名古屋市博物館で

第七回

中日展



森井公正 北の道標



山田秋道 円空



ホセ・バネガス "WANTED"